

全学アクションプラン(平成28年度版)

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値					
I. 建学の精神と二松学舎憲章											
1. 建学の精神	(1) 建学の精神とその現代的解釈の浸透	a. 建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 菅原学長 本城校長 長谷川校長 小町理事 土屋図書館長	◎総務・人事課 ◎広報課 ◎教務課 ◎入試課 ◎図書課 ◎高校事務室	・広報運営委員会	教職員、学生・生徒が本学建学の精神を理解し、帰属意識(母校愛)を持っている。	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に 関連した企画展・ 講演会の計画・実施 ③二松学舎小史改訂版 の編集開始	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に 関連した企画展・ 講演会の計画・実施 ③二松学舎小史改訂版 の刊行	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に 関連した企画展・ 講演会の計画・実施	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に 関連した企画展・ 講演会の計画・実施	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に 関連した企画展・ 講演会の計画・実施
2. 二松学舎憲章	(1) 二松学舎憲章の浸透	a. 二松学舎憲章の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎広報課 ◎大学改革推進課	・広報運営委員会	「二松学舎憲章」が全てのステークホルダーに周知され、その理念の浸透が図られている。	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し ③両附属校舎内への掲示実施	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し
3. 二松学舎史編纂事業と周年事業	(1) 編纂事業の推進と周年事業計画	a. 創立140周年記念事業 b. 創立150周年を視野に入れた舎史編纂事業の推進	◎五十嵐常任理事 小町理事 ◎五十嵐常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎広報課 ◎図書課	・140周年記念事業準備委員会 ・広報運営委員会	創立140周年(H29)事業が成功裏に達成されている。 舎史編纂所(仮称)が設置され、編纂事業がスタートしている。	①記念事業の一部前倒し実施 ②記念式典実施概要作成 ③記念出版物の刊行準備開始 ④140周年記念募金開始 ①調査、資料収集の継続 ②現存資料の整理・取りまとめ ③舎史編纂委員会を設置し、計画大綱の検討開始	①創立140周年、記念事業の実施 ⑤記念出版物刊行 ⑥140周年記念募金継続実施 ①調査、資料収集の継続 ②現存資料の整理・取りまとめ ③舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施	①記念事業の総括 ④舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施	①調査、資料収集の継続 ④舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施	①調査、資料収集の継続 ④舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施
II. 大学・高校・中学の教育改革(共通)											
1. 各設置学校間の連携強化	(1) 中高大一貫校化の体制整備	a. 中高大の連携強化 b. 高大接続の実質化 c. 両附属高で優秀な生徒の二松学舎大学への進学推奨 d. 大学で両附属高からの優秀な学生受け入れ e. 附属中・高を学生の教員養成実践の場として活用(学生による日常的な授業サポート等の実施) f. 「4・4・4制」学制改革への対応	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 本城校長 長谷川校長	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎入試課 ◎教務課 ◎附属高校 ◎柏中高	・全学政策会議 ・附属高校改革検討会議 ・校長室会議	学生・生徒募集に係る連携だけでなく、教育課程についても連携が図られ、中高大10年間の教育によって、長期ビジョンに掲げる人材を輩出している。 H32年度大学入学生のうち内部進学者: 両附属高校合わせ文学部70名、国際政治経済学部20名	②文系志望生徒への内部進学奨励、及び両附属高校での二松学舎大学進学コースの検討 ③学習ボランティア学生派遣の拡充 ④前年度課題の改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学者を対象とした大学教育との接続策の実施 ⑥両附属高校生徒への授業公開機会の増加	①②文系志望生徒への内部進学奨励、及び両附属高校での二松学舎大学進学コースの検討 ④改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学者を対象とした大学教育との接続策の実施 ⑥両附属高校生徒への授業公開機会の増加	①②文系志望生徒への内部進学奨励、及び両附属高校での二松学舎大学進学コースの検討 ④改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学者を対象とした大学教育との接続策の実施 ⑥両附属高校生徒への授業公開機会の増加	①②文系志望生徒への内部進学奨励、及び両附属高校での二松学舎大学進学コースの検討 ④改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学者を対象とした大学教育との接続策の実施 ⑥両附属高校生徒への授業公開機会の増加	①②文系志望生徒への内部進学奨励、及び両附属高校での二松学舎大学進学コースの検討 ④改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学者を対象とした大学教育との接続策の実施 ⑥両附属高校生徒への授業公開機会の増加
	(2) 両附属高校間の連携強化	a. 教育プログラムの共同開発 b. 施設・設備の共同利用 c. その他(人事交流・卒業生組織の連携等)	◎五十嵐常任理事 本城校長 長谷川校長	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎高校事務室	・附属中学・高校改革検討会議	両附属高校間の連携による教育プログラムや授業副教材の開発、施設・設備の共同利用等が行われ、教育効果が高まっている。	①両附属高校で連携した教育プログラムの開発 ②人事交流制度の規程整備 ③卒業生組織の連携検討	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施
	(3) 施設・設備の共同利用	a. (九段キャンパス)大学施設の一部を附属高と共同利用 b. (柏キャンパス)大学の教室・施設を附属高・附属柏中高での授業や運動でも利用	◎五十嵐常任理事 西畑常任理事 菅原学長 本城校長 長谷川校長	◎総務・人事課 ◎相事務室 ◎高校事務室	・全学政策会議 ・附属高校改革検討会議 ・校長室会議	各設置学校間での施設・設備の共同利用に係るルールが策定され、効率的な利用が実現されている。	①附属柏高校の大学教室 施設利用の継続実施 ②共同利用のための規程整備	①附属柏高校の大学教室 施設利用の継続実施	①附属柏高校の大学教室 施設利用の継続実施	①附属柏高校の大学教室 施設利用の継続実施	①附属柏高校の大学教室 施設利用の継続実施
III. 二松学舎大学・大学院の教育改革											
1. 大学(学部・大学院)のフレーム	(1) 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの浸透	a. 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく学生育成策の検討・実施	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革推進課 ◎教務課 ◎学生支援課		建学の精神を反映したカリキュラムにより、大学・大学院のビジョンに掲げる人材が輩出されている。	①浸透策に基づく周知 ②自校教育のための学部共通基礎ゼミナールの作成	①継続実施 ②検証・改善	①継続実施 ②検証・改善	①継続実施 ②検証・改善	①継続実施 ②検証・改善

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標						
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	
1. 大学 (学部・大学院)の フレーム	(2) 規模拡大への 取り組み	a. 新学部等の設置	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長			新学部等を設置し、学生を確保している。	①両学部の改革検討状況を踏まえ、新学部設置可否検討 ②都市文化デザイン学科申請及び届出 ③募集状況等の確認・検証・改善策の実施 ④都市文化デザイン学科学生募集広報の検討、実施 ⑤文学部の再改編案の検討 ⑥国文学科の定員増申					
		b. 文学部の改革	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学部長)	◎大学改革推進課 ◎企画・財務課 ◎教務課 入試課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・大学運営会議 ・大学審議会 ・教授会	文学部が学生を確保し、十分な教育水準を維持している。	①両学部の改革検討状況を踏まえ、新学部設置可否検討 ②都市文化デザイン学科申請及び届出 ③募集状況等の確認・検証・改善策の実施 ④都市文化デザイン学科学生募集広報の検討、実施 ⑤文学部の再改編案の検討 ⑥国文学科の定員増申	②都市文化デザイン学科開設 ③募集状況等の確認・検証・改善策の実施 ④効果の検証、改善 ⑤文学部の再改編案の検討 ⑥国文学科の定員増加	②都市文化デザイン学科2年目 ④効果の検証、改善 ⑤文学部の再改編案の検討 ⑥国文学科の定員増加	②都市文化デザイン学科3年目 ④効果の検証、改善 ⑤文学部の再改編案の検討	②都市文化デザイン学科完成年度 ④効果の検証、改善 ⑤文学部の再改編案の検討	
		c. 国際政治経済学部の改組検討	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 中山理事 (国際政治経済学部長)	◎大学改革推進課 ◎企画・財務課 ◎教務課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・大学運営会議 ・大学審議会 ・教授会	国際政治経済学部の教育研究水準が向上している。	①新カリキュラム4年間の検証、確認 ②国際政治経済学部改組案の策定、申請準備 ③募集状況等の確認・検証・改善策の実施 ④国際経営学科学生募集 ⑤国際経営学科学生募集 ⑥内部進学者確保策実施	①全体検証、改善 ②国際政治経済学部国際経営学科の準備、申請 ③国際経営学科学生募集 ④国際経営学科学生募集 ⑤国際経営学科学生募集 ⑥内部進学者確保策実施	①全体検証、改善 ②国際政治経済学部国際経営学科開設 ③効果の検証、改善	①全体検証、改善 ②国際経営学科学2年目 ③効果の検証、改善	①全体検証、改善 ②国際経営学科学3年目 ③効果の検証、改善	
		d. 国際政治経済学研究科の充実	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 中山理事 (国際政治経済学研究科長)	◎大学改革推進課 入試課 教務課		修士課程収容定員を充足している。	①国際政治経済学部改組に伴う定員増加の検討 ②文学部改組に伴う定員増加検討	①国際政治経済学部改組に伴う定員増加申請 ②文学部改組に伴う定員増加検討	①国際政治経済学部定員増加	①国際政治経済学部定員増加	①国際政治経済学部定員増加	①国際政治経済学部定員増加
		e. 「在籍学生5,000人規模総合大学」へ向けた取り組み	◎菅原学長	◎大学改革推進課		上記「a」「b」「c」「d」の状況等を見ながら、適宜検討						
2. 大学のマネジメント(管理運営)												
◆教学マネジメント体制の充実・強化												
A. カリキュラムの体系化(カリキュラムマップ、ナンバリングの導入等)												
・カリキュラムマップの作成 ・ナンバリング制度の導入 ・その他			◎菅原学長 高野副学長 磯副学長		・教務委員会 ・教授会	学生の主体的な学びに寄与するカリキュラムが整備され、国内外他大学との単位互換が容易となる制度が整備されている。	①カリキュラムマップ、ナンバリング制度、科目難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し	①カリキュラムマップ、ナンバリング制度、科目難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し ③文学部新学科カリキュラム始動	①カリキュラムマップ、ナンバリング制度、科目難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し ③国際政治経済学部改組後新カリキュラム始動	①カリキュラムマップ、ナンバリング制度、科目難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し	①カリキュラムマップ、ナンバリング制度、科目難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し	
B. シラバスの充実・強化												
・シラバス記載内容の見直し ・ルーブリック(評価基準)の確立 ・その他			◎菅原学長 高野副学長 磯副学長		・教務委員会 ・教授会	シラバスの記載内容が統一・整備され、当該科目の履修により修得できる知識・技能が明示され、学生の主体的学修計画策定の一助となっている。	①新シラバスの効果検証、見直し	①新シラバスの効果検証、見直し	①新シラバスの効果検証、見直し	①新シラバスの効果検証、見直し	①新シラバスの効果検証、見直し	
C. 教育方法の改善・改革												
・組織的FD活動の体系化と教科指導力の強化 ・授業方法改善 ・ICTの活用と学内ネットワークの見直し(無線LANの導入検討) ・CAP制度(年間履修上限単位制度)の全学的な導入 ・アクティブラーニングの推進 ・GPA制度の活用方法の検討 ・学修到達度調査・学修行動調査の導入 ・TA、SAの活用 ・図書館、ラーニングコモンズ等の施設機能充実 ・補習教育の充実、制度化 ・その他			◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学部長) 中山理事 (国際政治経済学部長) 土屋図書館長 瀧田センター長	◎教務課 大学改革推進課 情報センター 図書課	・自己点検 ・準備運営委員会等	PBL(Project Based Learning)、アクティブラーニングなどの新しい教授方法が導入され、一方向的指導から、双方向の指導へと転換している。また、学内ネットワークの見直しに伴う無線LANネットワーク等が整備され、ICTを活用した新たな授業が展開している。CAP制度・GPA・学修到達度調査・学修行動調査の活用と、TA・SAの活用、施設機能の充実等により、学生が主体的に学習できる環境が整備され、「学力」が高まっている。	①SA制度の効果検証、見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動の単位化検討・導入 ④FD活動等によるラーニング・コモンズの活用促進策検証 ⑤FD計画の具体化・実施 ⑥PC教室の活用、満足度等の調査実施 ⑦大学柏校舎の無線LAN環境の調査、部分的改善策実施	①SA制度の効果検証、見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単位化の検証・改善 ④FD計画の推進 ⑤アクティブラーニングの対象拡大 ⑥満足度調査の結果を受けたPC教室のリリース計画検討	①SA制度の効果検証、見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単位化の検証・改善 ④FD計画の推進 ⑤アクティブラーニングの検証・改善 ⑥既存PC教室のリプレイス実施、完了	①SA制度の効果検証、見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単位化の検証・改善 ④FD計画の推進 ⑤アクティブラーニングの検証・改善	①SA制度の効果検証、見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単位化の検証・改善 ④FD計画の推進 ⑤アクティブラーニングの検証・改善	

N ^o 2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標					
						【2020 (H32) 年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	D. 組織的な連携 ・大学院、学部間の連携 ・学部間の連携		◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎教務課	・教務委員会 ・教授会 ・研究科委員会	大学院・学部間の連携・協力体制が確立し、有機的かつ効率的な教育サービスが学生・生徒等に提供されている。	①大学院、学部間の連携カリキュラム検討 ②総合科目の見直し	①大学院、学部間の連携カリキュラム検討 ②総合科目の見直し	①大学院、学部間の連携カリキュラム導入 ②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し
	(1)教育方針の明確化	a. 大学全体の教育課程編成・実施方針、学位授与方針の明確化	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革推進課		カリキュラム、ディプロマポリシーが確立され、育成する能力・知識・技術と授業科目の内容との関連性が明示されている。	①新カリキュラムポリシーに準拠したカリキュラムの見直し ②新ポリシーの策定	①新カリキュラムポリシーに準拠したカリキュラムの開始			
	(2)学位論文審査基準の明確化	a. 学位論文審査基準の策定	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革推進課		客観性、厳格性が確保されたディプロマポリシーが定められ、基準に則り学位が授与されている。	①ディプロマポリシーに基づく学位授与方針の確定 ②学位論文審査基準の策定 ③新ポリシーの策定				
	(3)教育研究情報の集約、教育研究成果の検証	a. 教育課程の適切性等検証体制の整備・効果的な運営 b. シラバスと授業との整合性検証体制の整備 c. IR (Institutional Research) 機能の充実 d. 教育成果検証体制整備、教育研究成果の一元管理	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革推進課 ◎教務課		学内外への教育研究成果の公表、シラバス掲載内容の適合性に係る検証体制が構築され、ステークホルダーに情報提供されている。	①カリキュラムの適切性・整合性・改訂必要性の検証 ②新カリキュラムの検討 ③IR活動の活性化 ④国際政経論集の電子化実施				
	(4)教学ガバナンスの強化	a. 学長の権限強化 b. 大学運営会議・大学審議会・教授会等の機能権限の明確化 c. 副学長の職務権限の強化と明確化 d. 学部長の職務権限の明確化 e. 専任教員の充実 (著名教員の招聘等)	◎菅原学長 五十嵐常任理事	総務・人事課 ◎大学改革推進課		平成27年4月1日施行の「学校教育法の一部改正」に則った学内規程が運用され、学長のガバナンスが適正に実施されている。各会議体の役割分担、学内会議の整理統合が行われ、意思決定の迅速化が図られている。	①新体制での運用2年目 ②改善点の抽出 ③各種規程の整備・検証 ④都市文化デザイン学科設置に伴う体制整備 ⑤教員定数の適正化	①新体制の検証 ④国際政治経済学部改組に伴う体制整備 ⑤教員定数の適正化	①新体制の検証	①新体制の検証	①新体制の検証
3. 大学の教育改革	(1)二松学舎への愛校心 (帰属意識) 高揚教育	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時からの教えを教授 c. 著名な本学関係者・卒業生の功績等を教授 d. 自校教育等のための共通テキスト導入	◎磯副学長 菅原学長 五十嵐常任理事	◎教務課		創作活動に対する支援、本学独自の出版活動等を通じ、関係者の帰属意識が高まっている。	①前年度施策の効果検証、見直し ③共通テキストを用いた自校教育方針まとめ	①効果検証、見直し ③共通テキストの基礎ゼミへの導入	①③効果検証、見直し	①③効果検証、見直し	
	(2)学生ニーズへの対応	a. 学生による授業アンケートの分析、授業改善・学校運営へのフィードバック b. 学生満足度調査の実施、結果分析、課題への対応	◎高野副学長 菅原学長 磯副学長 江藤理事 (文学部長) 中山理事 (国際政治経済学部長)	◎大学改革推進課		授業アンケート、満足度調査等の結果が教育改革、環境整備に機動的に反映され、SS値 (Student Satisfaction) が高まっている。授業アンケート等の評価結果がFDに反映されている。	①授業アンケートの実施、方式の検証 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点抽出	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点の改善	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点の改善	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点の改善	
	(3)国際化への対応	a. 東アジアほかの大学との連携、及び派遣先の新規開拓 b. 国際センターの設置	◎高野副学長 菅原学長 塩田センター長 森野学務局長 大野理事	◎教務課 国際交流センター	・国際交流委員会 ・教務委員会等	日本に根ざした道徳心と「国語力」を基礎として、英語・中国語・韓国語などの外国語の実用的スキルを身に付けた学生が、海外留学や学内の留学生との交流を通じて、国際的視野と異文化理解力を涵養している。	①各施策の効果検証、見直し ②東アジアの文化と社会プログラム充実策の実施 ③国際環境の変化に対応できる授業へ転換するためのFD実施 ④国語の能力別クラス制導入準備 ⑤語学センターの検討及び設置 ⑥各種語学検定の積極的活用策の検討	①効果検証、見直し ④語学の能力別クラス制導入 ⑤語学センターの運営	①④⑥効果検証、見直し ⑤語学センターの充実化検討	①④⑥効果検証、見直し ⑧語学センターの課題抽出、改善策策定	
	①国際化教育の推進	a. 語学教育の少人数化実施 b. 英語・中国語・韓国語等教育の強化	a. 日本・中国等東アジアの文学・歴史・文化、政治・経済等知識の教授 b. 国際環境の変化に対応できる知識・情報等の提供 c. 東洋の精神に基づく道徳心の涵養								

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
3. 大学の 教育改革	(4)キャリア教育	a. 入学時からの体系的キャリア教育確立 b. 実践的キャリア教育 c. 実践的な知識技能の習得方策の検討	◎高野副学長 菅原学長 佐藤センター長 森野学務局長 大野理事	◎就職支援課 教務課	・教務委員会 ・キャリアセン ター会議	東アジア文化・語学等を理解した本 学の卒業生が、国内だけでなく世界 の各界で活躍している。	①実践的講座の充実 ②国内インターンシップの 派遣体制の充実単位 化等について関係 各課と検討、連携強化	②国内インターンシップの 単位認定について検討	②国際政治経済学部 新体制で国内イン ターンシップの単位化 開始 ③学部におけるイン ターンシップ体制強化	①各施策の効果検証、 見直し	①各施策の効果検証、 見直し ③両学部で国内イン ターンシップ単位化開始
		a. 教員採用試験合格者の大幅増 b. 国語・書道・外国語(中国語)教員養成の強化 c. 社会科教員養成への注力 d. 古文や漢文の実力持つ教員養成 e. 新たな教員免許制度に備えた対応 f. 卒業生教員との連携強化	◎磯副学長 菅原学長 若井田センター長 森野学務局長	◎教職支援 センター		毎年度、一定数の教員採用実績が あり、「専門性の高い教員=二松學 舎大学卒教員」というブランドが構築 されている。 H32年度 専任教員採用者数:20名 (うち社会科教員3名を含む。) H32年度 教員採用模試平均 得点:55点	①各施策の効果検証、 見直し ②③「教員の会」神奈川 県・茨城県の会との 連携強化 ④「教員の会」埼玉県の 会の立ち上げ・組織化 ⑤教職希望者の学力等 データ収集・蓄積 ⑥「教員の会」千葉県・ 東京都の会の立ち上げ 準備 ⑦教職履修者へのアン ケート実施、改善点 抽出 ⑧「教員の会」の全国的 なネットワーク構築に 向けた課題の整理	①各施策の効果検証、 見直し ②③④ 「教員の会」神奈川県・ 埼玉県・茨城県の会との 連携強化 ⑥「教員の会」千葉県の 会の立ち上げ組織化 ⑦データを活用した教 職支援センターの 自己点検システム確立 準備 ⑧「教員の会」の全国的 なネットワーク構築に 向けた課題の整理	①各施策の効果検証、 見直し ②③④⑥ 「教員の会」首都圏1都 4県の各会との連携 強化 ⑧「教員の会」1都4県の 会の合同開催準備 ⑨「教員の会」の全国的 なネットワーク構築へ 着手 ⑩「教員の会」東京都 の会の立ち上げ・組織化	①各施策の効果検証、 見直し ②③④⑥⑧⑩ 「教員の会」首都圏1都 4県の会の合同開催、 各会との連携強化 ⑨「教員の会」の全国的 なネットワーク構築を 継続実施	①各施策の効果検証、 見直し ②③④⑥⑧⑩ 「教員の会」首都圏1都 4県の会の合同開催、 各会との連携強化 ⑨「教員の会」の全国的 なネットワーク構築を 継続実施
	(6)父母会・ 卒業生との 連携	a. 父母会との連携強化、意見を学校運営に 反映する仕組み検討 b. 卒業生ネットワーク整備 c. 松苓会との連携強化	◎磯副学長 菅原学長 森野学務局長	◎学生支援課 大学改革 推進課		父母会組織が強化され、大学と密接 に連携し、効果的に各種事業を実施 している。松苓会との連携が強化さ れ、志願者の増、学生の就職活動上 の支援体制の充実につながっている。	①②③ 前年度施策の効果 検証、見直し ④卒業生名刺交換会の 継続・検証 ⑤卒業生の新たなネッ トワーク構築 ⑥卒業生在職調査実施	①②③ 効果検証、見直し ④卒業生名刺交換会の 継続・検証 ⑦父母会との連携強化 策検証 ⑧OB組織・父母会の あり方の検証	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し
	(7)地域との 連携、他大 学との交流	a. 千代田区・柏市との連携による地域振興 教育の実施 b. 千代田区・柏市以外の地域との連携・ 「まちおこし」の検討 c. 教育研究成果の公表・社会への還元 d. 生涯学習講座の充実、市民の受け入れ e. 岡山商科大学、倉敷市との連携 f. 他大学との交流活発化	◎磯副学長 菅原学長 江藤理事 (文学部長) 中山理事 (国際政治経済 学部長) 土屋図書館長	総務・人事課 広報課 柏事務課 ◎地域連携室 ◎大学改革 推進課 図書館		本学学生・生徒にとっての「学び舎」 としてだけでなく、地域社会・地域 住民にとつての知的拠点として、広く 一般に公開されている学校となってい る。 H32年度 生涯学習講座受講者増加 率及び人数:H25年度比+15.0%(受 講者数+74名)	①前年度施策の効果 検証、見直し ②大妻女子大学との連携 継続 ③千代田区内大学と千代 田区の連携協力会議 参加 ④千代田学課題研究・ 新規応募 ⑤区内インターンシップ・ ボランティア等への参加 ⑥柏市との連携による新 たな公開講座の導入 ⑦近隣の町会活動への 積極的参加 ⑧岡山商科大学との学術 連携継続実施 ⑨倉敷市との連携につ いて具体策策定、実施 ⑩千代田区・柏市両地 区の地域連携協議会 設置、地域の課題解 決に向けた協議実施 ⑪地域研究実施の検討 ⑫柏市との包括的連携 に係る協定締結	①効果検証、見直し ③～⑨⑫継続実施 ⑩倉敷市との連携実施 ⑪「漱石アンドロイド」を 活用した漱石ゆかりの 自治体等との連携検 討・実施 ⑬地域研究活動実施	①効果検証、見直し ③～⑨⑫継続実施 ⑩「漱石アンドロイド」を 活用した漱石ゆかりの 自治体等との連携検 討・実施	①効果検証、見直し ③～⑨⑫継続実施	①効果検証、見直し ③～⑨⑫継続実施

N' 2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
4.大学院の教育改革	(1) 文学研究科の改革	a. 東アジア学術総合研究所との連携、日本漢文学・中国学・国文学の日本における拠点としての地位向上	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学研究科長) 高山研究所長	◎大学改革推進課 教務課	・専攻主任会議 ・研究科委員会	国内外への研究成果の情報発信を通じて「国漢の二松学舎」の伝統を保ち、専門性の高い国語科教員、研究者が全国で活躍している。	①新カリキュラムの効果検証、見直し ②若手研究者受入体制の整備 ③大学院学費改定実施	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し
		b. 教員・研究者の輩出									
	(2) 国際政治経済学研究科の改革	a. 産学協同の推進	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 中山理事 (国際政治経済学研究科長)	◎大学改革推進課 教務課	・専攻主任会議 ・研究科委員会	広い視野と実践的対応力を身に付けた、国際的職業人を多数輩出している。	①新カリキュラムの効果検証、見直し ②寄付講座導入案策定 ③大学院学費改定実施 ④学部改組に伴うカリキュラムの検証	①効果検証、見直し ②寄付講座開設 ③学部改組に伴うカリキュラムの検証	①②③④⑤⑥ 効果検証、見直し	①②③④⑤⑥ 効果検証、見直し	①②③④⑤⑥ 効果検証、見直し
		b. 専門的職業人の育成									
(3) 教員養成の高度化に向けた対応	a. 新たな教員免許制度に備えた対応	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学研究科長) 中山理事 (国際政治経済学研究科長)	◎教職支援センター 教務課 大学改革推進課	・教職課程等カリキュラム検討委員会	現職教員の履修に配慮した受け入れ体制や、高度専門職として位置付けられた教員養成に必要な教育課程が整備されている。	①新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施	①継続実施	①継続実施	①継続実施	①継続実施	
	(4) 国際化への対応	a. 東アジア学術総合研究所と連携した海外大学等との国際交流の推進	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 高山研究所長	◎大学改革推進課		海外大学等への本学関係者の派遣、海外研究者等の受け入れが活発に行われ、ダブルディグリー制度等が機能している。	①国際交流活性化策の一部実施	①国際交流活性化策の一部実施	①国際交流活性化策の一部実施	①国際交流活性化策の一部実施	①国際交流活性化策の一部実施
5. 研究活動の推進	(1) 研究活動の推進・充実	a. 研究活動に係る補助金(科研費等)の積極的獲得	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学研究科長) 中山理事 (国際政治経済学研究科長) 高山研究所長	◎大学改革推進課 企画・財務課 教務課		学術研究に係る補助金を積極的に獲得し、研究活動を推進している。日本漢文学研究の世界的拠点として内外から認識されている。秋葉原に研究拠点が構築され、本学の新たな研究活動拠点として機能している。	①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業推進 ②継続実施 ③夏目漱石アンドロイドを活用した講演・講義の実施	①中間報告 ②継続実施 ③夏目漱石アンドロイドを活用した講演・講義の実施	①継続実施 ②継続実施	①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究発表 ②秋葉原での研究活動継続実施、成果発表準備	①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究発表 ②秋葉原での研究活動継続実施、成果発表準備
b. 全学的研究プロジェクトの推進 ・SRF支援事業 ・秋葉原プロジェクト ・漱石アンドロイド研究											
6. 学生支援	(1) 総合的學生支援策	a. 学生支援業務への全学的な理解の浸透	◎森野学務局長				①講演会、研修会などによる学生支援についての共通認識醸成	①継続実施 ②効果の検証	①継続実施 ②効果の検証	①継続実施 ②効果の検証	①継続実施 ②効果の検証
		b. 学生支援センターの開設と運用	◎森野学務局長				①学生支援センターの開設 ②学内連携に向けた規程整備準備 ③全学学生委員会の活用と改善	①②③ 課題の洗い出しと対応策の検討	①②③ 課題の洗い出しと対応策の検討	①②③ 課題の洗い出しと対応策の検討	①②③ 課題の洗い出しと対応策の検討
		c. 学生支援スタッフの育成とピアサポート	◎森野学務局長	◎学生支援課		多様な学生に対する共通認識を基盤にして、学修支援や利用しやすい相談窓口、ラウンジ的な機能も担う、学生サービスの一元的担当組織として「学生支援センター」が設立され、教職協働に基づき、学生たちが安心して充実した学生生活が送れるような学生支援が行われている。	①支援システムの試験運用開始 ②学生主体のサポート体制の具体案検討	①支援システムの本運用開始 ②学生主体のサポート体制の試験運用	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し
		d. 保健室運営の見直し	◎森野学務局長				①終日開室と職員常駐体制の準備 ③保健衛生教育の本格的展開 ④他大学の保健室運営	①終日開室と職員常駐体制の実施	①③継続実施	①③継続実施	①③継続実施

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)																
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標													
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度								
6. 学生支援	(1) 総合的 学生支援策	e. 留学生支援、留学生の受け入れと送り出し ・双方向交流のための環境整備 f. 受け入れ留学生数・派遣留学生数の引き上げ	◎高野副学長 塩田センター長 森野学務局長	教務課 学生支援課 ◎国際交流センター		短期・長期留学生の増加、相互の国際的文化交流により、学生達の多角的な学習が発展している。 H32年度 私費外国人留学生数:65名 H32年度 派遣留学生数:8名	①新規協定校設定の方針等検討、情報収集 ②認定留学制度の具体案検討 ③私費外国人留学生増加策検討 ④海外大学とのダブルディグリー制度導入交渉開始 ⑤派遣留学生の単位認定方法の見直し	①新規協定校設定の方針決定、情報収集継続 ②認定留学制度の具体案確定 ③私費外国人留学生増加策検討 ④海外大学とのダブルディグリー制度導入交渉継続 ⑤効果の検証	①新規協定校との協定締結 ②認定留学制度の実施 ③私費外国人留学生増加策の運用開始 ④海外大学とのダブルディグリー制度入学募集開始 ⑤効果の検証	①新規協定校との交流開始 ②認定留学制度の課題抽出 ③④⑤ 効果の検証、見直し	①②③④⑤ 効果の検証、見直し								
		g. 奨学金制度の拡充	◎高野副学長 西畑常任理事	◎学生支援課 企画・財務課		経済的困窮や家計の急変に対する経済的支援が、給付型奨学金を中心に充実しているとともに、特待生、一定の資格獲得者、課外活動等の優秀者への奨学金も創設され、学生たちのインセンティブになっている。	①新奨学金制度の一部施行 ②効果検証、支給人数等 の見直し	②効果検証、支給人数等 の見直し	②効果検証、支給人数等 の見直し	②効果検証、支給人数等 の見直し	②効果検証、支給人数等 の見直し								
		h. 課外活動支援 ・全学的なサポート体制の構築 ・顧問制度の見直し ・施設設備の充実	◎森野学務局長	◎学生支援課		九段・柏両キャンパスにおける、施設の充実が図られ、多くの学生がスポーツ・文化系の課外活動に参加している。 H32年度 課外活動加入率:40.0%	①九段・柏両キャンパスの学生施設全体計画の検討 ②学生の課外活動への支援制度の規程整備・導入準備	①学生施設整備全体計画案の策定 ②新支援制度の導入	①一部実施 ②効果検証、見直し	①一部実施 ②効果検証、見直し	①一部実施 ②効果検証、見直し	①一部実施 ②効果検証、見直し							
		i. 就職支援	◎高野副学長 菅原学長 佐藤センター長 森野学務局長 大野理事	教務課 ◎就職支援課	・教務委員会 ・キャリアセンター 会議	学生が就業力を高められる就職支援体制を確立し、就職希望者の就職率が100%に近づいている。 H32年度 就職率(一般企業):95.0% H32年度 公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む):45名 H32年度 就職特別講座受講者:210名 H32年度 インターンシップ参加者:80名 H32年度 3年生への就職希望調査(個人面談率):100%	①各施策の効果検証、見直し ②職員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 25名 ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 35名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 40名	①②効果検証、見直し ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 35名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 40名	①②効果検証、見直し ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名	①②効果検証、見直し ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名	①②効果検証、見直し ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名	①②効果検証、見直し ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名	①②効果検証、見直し ③公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標 45名						
		⑦就職率向上につながる求人開拓													①開拓企業への内定状況等検証	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施
		⑧卒業生とのネットワーク強化												◎磯副学長 菅原学長 佐藤センター長 森野学務局長	教務課 ◎就職支援課	・教務委員会 ・キャリアセンター 会議	①実業界OB・OGネットワーク確立 ②卒業生在職調査継続実施	①②③ 効果検証、見直し	①②③ 効果検証、見直し
		(2) 学生ポータルサイト、学生ポータルサイトの活用	a. システムを利用した教員、学生間コミュニケーションの充実 b. 学修履歴、指導履歴の可視化・記録化 c. システムを介した仮想共同学修空間の創設 d. ポータルサイトを利用した情報周知の徹底、利便性の向上	◎磯副学長 佐藤センター長 瀧田センター長 若井田センター長 森野学務局長	◎教務課 学生支援課 就職支援課 情報センター 教職支援センター		学生ポータルサイトを介した情報提供が円滑になされており、学生ポータルサイトの多様な機能を活用した学生の主体的な学びの体制が構築されている。	①システム運用の検証(前期) 検証内容を踏まえた改善(後期) ②授業での利用促進	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し						
			(1) 優秀な学生 確保・入試改革	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 西畑常任理事	◎入試課	・大学運営会 ・学生募集広報 戦略検討会議	成績優秀者に対するインセンティブが確立し、これに伴い、入学者の試験別比率が、一般入試入学者が過半数を占めるようになっている。 H32年度 一般入試入学者率: H32年度 志願者数増加率: H27年度比+45%(志願者数 文学部2050名、 国際政治経済学部750名)	①新アドミッションポリシーの策定 ③④⑤⑥⑦⑧ ⑨センター入試廃止後の入試制度について検討 ⑩全学的な入試会議の発足	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩ 効果検証、見直し ⑨センター入試廃止後の入試制度について検討	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩ 効果検証、見直し ⑨新入試制度の概要策定	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩ 効果検証、見直し ⑨センター試験廃止に伴う新入試制度の概要確定	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩ 効果検証、見直し ⑨センター試験廃止に伴う新入試制度の概要確定							

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	(2)退学者等の減少	a.退学者等の減少	◎森野学務局長	◎学生支援課		総合的な学生支援策が奏功し、退学者、除籍者、休学者などが減少している。 H32年度 退学・除籍者数等:40名	①継続的な分析と対応策の検討・実施 ②改善案の策定と実行	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し
8.キャンパス整備	(1)九段での教育研究環境整備、学生ホール等の整備	a.九段地区で新校舎建設 b.九段キャンパス既存校舎の改修 c.秋葉原での研究拠点構築	◎西畑常任理事 菅原学長	◎企画・財務課 総務・人事課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・キャンパス整備委員会	1号館～4号館の建物群で構成された「都市型キャンパス」として機能している。	①教室利用状況調査、改善 ②九段エリアの物件情報収集 ③秋葉原での物件確保 ④学科改組を踏まえた教室過不足の調査、対応策の実施	①③継続実施 ⑥新たなキャンパス整備計画の検討	①③継続実施 ⑥新たなキャンパス整備計画の検討	①③継続実施 ⑥具体案の策定	①③継続実施 ⑥具体案の策定
		a.大学九段集約後の利用計画検討 b.全天候型グラウンドへの改修 c.生涯学習等で活用	◎西畑常任理事 菅原学長	◎企画・財務課 総務・人事課 相事務課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・キャンパス整備委員会	大学・両附属高校・中学校の連携・協力によって、施設が効率的に活用されている。	①柏キャンパス活用計画の実施 ②施設使用に関する内規制定、施行 ③柏校舎の大学グラウンド整備計画の策定 ④柏校舎の外部貸出の検討	①②効果検証、見直し	③新たなキャンパス整備計画の検討	③具体案の策定	③具体案の策定
	(3)図書館の整備	a.九段・柏両館の重複資料の整理・一本化 b.省スペースでの効果的な利用方法の検討	◎磯副学長 菅原学長 土屋図書館長	◎図書課		省スペースで効果的な利用方法を確立し、次世代型の図書館として運営され、利便性が高まっている。	①整備計画に基づいた運営実施 ②重複雑誌のデータ整理・除籍計画策定・実施	①②継続実施 ③紀要整理	①②③継続実施	①②③継続実施	①②③継続実施
IV. 附属高校の教育改革											
1. 教育改革											
(1)附属高の「ビジョン」の浸透	a.附属高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b.ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施		◎本城校長	◎高校事務室	・学力向上委員会 ・国語科	論語・漢文を通した全人教育を行うことにより、ビジョンを内外に浸透させる。 H32年度 大学文学部進学者の漢文検定合格者数:50名	①漢文検定において、大学文学部進学者全員の受験と合格を目標とする。 ②選集『私の論語』作成の施行	①漢文検定において、大学文学部進学者全員の受験と合格を目標とする。 ②選集『私の論語』作成の実施	①漢文検定において、大学文学部進学者全員の受験と合格を目標とする。 ②選集『私の論語』作成の実施	①漢文検定の効果検証、見直し ②選集『私の論語』作成の実施	①漢文検定の効果検証、見直し ②選集『私の論語』作成の実施
		a.精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b.問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c.東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	◎本城校長	◎高校事務室	・国語科(論語担当者) ・総務部 ・生活部	「人間(ひと)作り」のための行事等を強化し、生徒の精神力を育む。	①前年度施策の検証、見直し ②『論語』教育の継続実施 ③伝統行事への参加 ④ボランティア活動継続	①前年度施策の検証、見直し ②『論語』教育の継続実施 ③伝統行事参加の定着 ④ボランティア活動定着	①②③④継続実施	①②③④継続実施	①②③④継続実施
	a.二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b.三島中洲の考え・当時から教授を教授 c.有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授 d-1.授業の改善・工夫の実践 d-2.クラブ活動の活発化による愛校心育成 d-3.甲子園連続出場	◎本城校長 五十嵐常任理事	◎高校事務室	・企画運営会議 ・生活部 ・校内松友会	学校の教育活動全体を通して仲間意識を醸成し、一体感を育て帰属意識や学校への愛校心が育成されている。	①映像を活用した二松学舎理解教育実施 ②コラム継続実施 ③部活動指導体制の充実 ④各種施策の実施 ⑤創立70周年記念事業の検討開始	①②③④効果検証、継続実施 ⑤創立70周年記念事業の検討	①②③④効果検証、継続実施 ⑤創立70周年記念事業の実施	①②③④効果検証、継続実施	①②③④効果検証、継続実施	
	a.外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 b.交換留学制度の検討 c.英検等合格者の増加	◎本城校長 大野理事	◎総務・人事課 ◎高校事務室	・学力向上委員会 ・英語科 ・教務部	実力テスト等の導入や交換留学制度の確立により、国際化に対応できる人材を育む。英検合格者をH32年には次のように引き上げる。 H27年度(3年生) ・2級合格=9名(234名中、3.8%) ・準2級合格=61名(234名中、26%) ↓ H32年度(3年生) ・2級合格=25名(250名中、10%) ・準2級合格=125名(250名中、50%)	①外部英語試験導入検討 ②ALT活用の継続実施 ③海外語学研修(英語)実施 ④交換留学制度の検討 ⑤英検受験者400名、合格者130名(2級20名、準2級110名)を目指す	①外部英語試験の導入、スコア分析 ②各制度の確立・継続実施 ⑤英検受験者400名、合格者130名(2級20名、準2級110名)を目指す	①外部英語試験のスコアアップ ②各制度の継続実施 ⑤英検受験者400名、合格者130名(2級20名、準2級110名)を目指す	①外部英語試験のスコアアップ ②各制度の継続実施 ⑤英検受験者400名、合格者150名(2級25名、準2級125名)を目指す		
	a.保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進	◎本城校長	◎高校事務室	・図書部 ・学校評価委員会	学校評価委員会の活用、町内行事への参加により、地域との連携体制を維持している。	①学校評価委員会、町内行事への教職員生徒の参加を継続実施 ②外部委員による検証・問題点抽出 ③周辺施設(イタリア文化会館、インド大使館、イギリス大使館等)との連携活動検討	①学校評価委員会、町内行事への教職員生徒の参加を継続実施 ②問題点の検証・改善 ③周辺施設(イタリア文化会館、インド大使館、イギリス大使館等)との連携活動実施	①③継続実施 ②問題点の検証・改善	①③継続実施 ②問題点の検証・改善	①③継続実施 ②問題点の検証・改善	

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
1. 教育改革	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 b. 難関大学への合格者増 c. 教員の組織的なFD活動実施の検討 d. 教員の教科指導力の向上 e. 大学入試制度改革と連動した教育課程の見直し	◎本城校長	◎高校事務室	・企画運営会議 ・学力向上委員会 ・教務部 ・進路指導部 ・教科主任会議	難関大学への合格者を毎年度輩出する。(H32年度GMARCH35名、日東駒専100名合格を目標とする。)このために、教員の教科指導力を強化するための研修制度が確立されている。	①各種講習の効果検証、見直し ②前年度施策の継続実施、見直し ③教科別指導プログラムの立案・実施、検証 ④英語教員の海外語学研修実施、効果検証 ⑤研究紀要による研究・研修実績公表 ⑥中学教育補完講座の検証 ⑦大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの策定 ⑧教員への大学院等への派遣研修実施の検討	①各種講習の実施方法確立 ②③④⑤⑥前年度施策の継続実施、見直し ⑦大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの実施 ⑧教員の大学院等への派遣研修実施 ⑨研修制度確立	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨前年度施策の継続実施、見直し	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨前年度施策の継続実施、見直し	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨前年度施策の継続実施、見直し
		a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少	◎本城校長	◎高校事務室	・入試企画部 ・入試委員会	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。	①前年度施策の継続実施、検証、見直し ②成績不振者への対策授業を各学年で年間で行い取り組む。 ③各担任による二者面談の強化 ④説明会・相談会の参加者増加策を検討・実施 ⑤募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ⑥保護者や生徒への満足度調査実施 ⑦習熟度別クラス編成の継続実施	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し
2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	◎本城校長	◎高校事務室	・企画運営会議	特待生制度の拡充等により生徒を支援する。	①新奨学制度の効果検証、見直し ②チューター制度拡充実施 ③父母の会、同窓会支援制度の実施	①②③制度確立	①②③制度確立		
3. キャンパス整備	(1) 附属高校の施設設備整備	a. 現在地で将来の校舎建替を検討 b. 柏を運動施設として活用	◎西畑常任理事 ◎本城校長	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎高校事務室	・企画運営会議 ・体育科 ・生活部	九段校舎の設備を充実させつつ、柏の体育施設を有効活用している。	①柏での体育集中授業の継続実施、見直し ②柏グラウンドの設備充実策検討 ③無線LAN環境の構築	③柏グラウンドの設備充実策検討 ④柏活用体制の確立	②九段校舎の現在地での建替の可能性・時期等の検討 ③柏グラウンドの設備充実策検討	②九段校舎の現在地での建替の可能性・時期等の検討 ③柏グラウンドの設備充実策検討	②九段校舎の現在地での建替の可能性・時期等の検討 ③柏グラウンドの設備充実策検討
V. 附属柏中学校・高校の教育改革											
1. 教育改革	(1) 附属柏中高の「ビジョン」の浸透	a. 附属柏中高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・広報部会 ・教務部会	ホームページ、広報用パンフレット、校内研修等が充実し、校内外のステークホルダーに本校のビジョンが浸透している。	①ホームページ、パンフレット、広報誌内容の充実 ②初任者研修、教員研修の実施	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善
	(2) 「人間(ひと)作り」、人格教育	a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・教務部会 ・国語科会議 ・学年会議 ・生徒部会	東洋の精神に基づき、相対的な価値観を求める観点から多様な思想を学び、大きな視野にたつて物事を考えられる生徒を輩出している。	①『論語』の教員研修の企画検討、実施 ②中学論語検定継続実施 ③高校3学年での論語検定実施検討 ④前年度施策の効果検証、改善 ⑤合同行事の実施	②④⑤継続実施 ①『論語』の教員研修の更なる充実 ③高校3学年での論語検定実施 ⑥研修内容の検証、改善	①②③④⑤継続実施 ⑥研修内容の検証、改善	①②③④⑤継続実施 ⑥研修内容の検証、改善	①②③④⑤継続実施 ⑥研修内容の検証、改善

N°2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
1. 教育改革	(3) 愛校心の 育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時から教えるを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授	◎長谷川校長 五十嵐常任理事	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・広報部会 ・教務部会 ・中学校会議	今日の国際社会に生きる生徒たちが、世界的な視野にたった三島中洲師の思想に価値観を見出し、それを受け継ごうとしている。	①前年度施策の継続実施、検証 ②二松学舎の歴史と伝統に係る資料コーナーの設置 ③夏目漱石研究実施	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証
		a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 ・ネイティブ(英語・中国語・韓国語)教員の確保 ・英語圏への短期研修の実施 b. 英検等合格者の増加	◎長谷川校長 大野理事	総務・人事課 ◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・教務部会	オーストラリア等の英語圏及び中国への研修などが実施され、国際交流が充実している。卒業学年(3年生)の100%が英検3級、50%が準2級、20%が2級に合格している。	①中学生向け中・韓国語補修の実施 ②中3特選、高2スーパー特選オーストラリア語学研修実施 ③高校グローバルコースの検討 ④中学生グアム研修旅行実施準備 ⑤グローバルコース海外研修先の検討(カナダ) ⑥各種検定取得奨励・数値目標の設定	①②⑤⑥継続実施 ③高校グローバルコース開設準備 ④中学生グアム研修旅行実施	①②④⑥継続実施 ③高校グローバルコース開設 ⑤高校グローバルコース海外研修先決定、実施準備	①②④⑥継続実施 ⑤高校グローバルコース生カナダ語学研修実施	①②④⑤⑥継続実施
	(5) 地域・社会 との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進 ・補習授業、夏季勉強会におけるサポーター(卒業生等)の活用	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・生徒部会 ・教務部会 ・中学校会議	柏市、地域住民、企業などとの新しい連携、交流が深まり、地域における存在感が増している。	①夏期勉強会への大学生サポーター導入の実施と効果検証 ②近隣等の清掃活動継続実施 ③『沼の教室』、『田んぼの教室』継続実施 ④柏中高50周年記念	①②③④継続実施	①②③④継続実施	①②③継続実施 ④柏中高50周年記念行事実施	①②③継続実施
	(6) 教育の実践 ・充実	a. 学力の向上 ・学年、教科間での情報の共有と連携の強化 ・教員研修の実施 ・中高一貫カリキュラムの検証、確認 b. 難関大学への合格者増 ・中高におけるFD推進による教科指導力の強化 c. 大学入試制度改革と連動した教育課程の見直し	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・進路部会 ・教務部会 ・中学校会議 ・高等学校会議 ・学年会議 ・各教科会議	スーパー特選クラス、特選クラスをはじめとして、進学校としてより充実した教育が実践されている。教員の質が更に向上し、実践的な授業が展開されている。具体的には、スーパー特選は難関国公立大学(特に理系)及び私立大学への現役合格率50%、特選は難関私立大学への現役合格率100%という目標に近づいてきている。 H32年度 国公立合格者15名、早慶上理合格者25名、GMARCH合格者60名	①②③前年度施策の継続実施、検証 ④報告会、研修会の継続・改善 ⑤GTECを柱とした英語指導実施、効果検証、改善 ⑥大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの策定 ⑦S特、特選カリキュラムの検証 ⑧タブレットPCによる動画教材の活用	①②③④⑤⑧ 前年度施策の継続実施、検証 ⑥大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの実施	①②③④⑤⑥⑧ 前年度施策の継続実施、検証	①②③④⑤⑥⑧ 前年度施策の継続実施、検証	①②③④⑤⑥⑧ 前年度施策の継続実施、検証
	(7) 入学者の 確保、退学 者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少 c. 附属柏中学の生徒募集力強化	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議等	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。	①高校に臨時定員増の要請があれば31名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③ベネッセスタディーサポート、ファインシステムの継続、効果検証、改善 ④生徒面談の充実、カウンセラーの活用 ⑤生徒募集担当顧問の配置による募集力強化	①高校に臨時定員増の要請があれば31名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤ 継続、効果検証、改善	①高校に臨時定員増の要請があれば31名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤ 継続、効果検証、改善	①高校に臨時定員増の要請があれば31名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤ 継続、効果検証、改善	①高校に臨時定員増の要請があれば31名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤ 継続、効果検証、改善
	(8) 定員充足	a. 附属柏高校の規模拡大 ・臨時定員増を活用した規模拡大 b. 附属柏中学で入試難易度を下げずに定員充足 ・進路実績の向上	◎長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・中学校会議 ・高等学校会議	中学校において定員充足率が100%を超えている。 H32年度 高校定員充足率:110.0% H32年度 中学校定員充足率:100.0%	②中学1・2年、高校1・2年全員へタブレットPC導入 ③授業、学校支援サービス導入	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・教務部会 ・総務部会	教職員、父母、卒業生などの協力体制の下で、6年間(3年間)を通して生徒の進路実現に向けたサポートが体系的に実施されている。	①個別面談、保護者会、懇談会等の実施、検証 ②学校評価委員会充実策の継続実施、効果検証、見直し ③特待生制度拡充策の取り纏め、規程整備	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行
3. キャンパス整備	(1) 附属柏中高の施設設備整備	a. 自然環境を生かした整備	◎西畑常任理事 長谷川校長	◎企画・財務課 高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議等	ピオトープなどの設置が進み、より充実した教育環境が整備されている。	①ピオトープ設置についての継続審議 ②③校内自然観察用名札、ルートマップ原案作成	①効果検証 ②③継続実施	①効果検証 ②③継続実施	①効果検証 ②③継続実施	①効果検証 ②③継続実施
VI. 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他											
1. 長期ビジョンの推進	(1) N'2020Planの推進とそのための情報の共有化	a. N'2020Planを学生生徒・父母・OB・教職員等へ伝授、共有化	◎西畑常任理事 五十嵐常任理事	広報課 ◎企画・財務課	・アクションプラン推進管理委員会	長期ビジョンの精神が学内外関係者に理解・共有され、諸改革への積極的な支援・協力体制が整っている。	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布 ④後継長期ビジョン「N'2030 Plan」の検討開始	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布 ③「N'2030 Plan」の策定、公表	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布 ③長期ビジョン総括準備	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布 ③長期ビジョン総括	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布 ③長期ビジョン総括
2. 財務	(1) 学生生徒等納付金の増収	a. 戦略的授業料体系の検討	◎西畑常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長 本城校長 長谷川校長	◎企画・財務課 ◎大学改革推進課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・教授会等	都市型大学として、多様化する学生ニーズに即応できるための財政基盤が築かれている。 H32年度 H26年度対比学納金増収額:156,000千円	③学費等改定による変化等の検証	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し
		b. 学生確保のための奨学金支給拡充	◎西畑常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長 本城校長 長谷川校長	◎企画・財務課 ◎大学改革推進課	・理事会 ・常任理事会 ・予算編成会議 ・全学政策会議 ・教授会等	給付型奨学金支給人数拡充に向け、計画的な基金の積み増しが行われている。 H32年度 第3号基本金積増額:300,000千円 H32年度 奨学金受給者数:51名 H32年度 奨学金支出額:54,038千円	①②新奨学金制度、奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金に係る考え方の検討	①②新奨学金制度、奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施	①②新奨学金制度、奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施	①②新奨学金制度、奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施	①②新奨学金制度、奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施
	(2) 他の収入の恒常化	a. 競争的補助金の積極的確保	◎西畑常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎企画・財務課 ◎大学改革推進課	・全学政策会議 ・部局長会議	科研費等の申請が増加し、専任教員の4割が公的資金を活用している。経常費等補助金(特別補助)については、獲得目標件数を定め、獲得率80%を目標とする。	①科研費応募率向上のための施策検討 ③新受給目標の設定 ⑤「H28年度私立大学研究ブランディング事業」の採択を目指す	①継続実施 ②未来経営戦略推進経費最終報告 ③新受給目標80%達成 ⑤「H29年度私立大学研究ブランディング事業」の採択を目指す	①継続実施 ③新受給目標80%達成	①継続実施 ③新受給目標80%達成	①継続実施 ③新受給目標80%達成
		b. 寄付金の戦略的な確保	◎西畑常任理事 菅原学長 本城校長 長谷川校長	◎企画・財務課 総務・人事課	・教育研究振興資金管理運営委員会	ステークホルダー毎に内容を変更した寄付募集案内等を送付し、寄付者の寄付意欲向上に繋がる募集活動を展開。寄付率(寄付件数/DM発送件数)10%を目標とする。 H32年度 寄付率(寄付件数/DM発送件数):8.0% H32年度 寄付金額:80,000千円	①創立140周年記念募金募集開始 ②寄付率5%達成	①創立140周年記念募金募集 ②寄付率6%達成	①創立140周年記念募金募集 ②寄付率8%達成 ⑤附属高校周年記念募金の実施	①創立140周年記念募金総括 ②寄付率8%達成 ⑥附属柏中学・高校周年記念募金の実施	①教育研究振興資金の募集 ②寄付率8%達成

N'2020Plan の課題			全学アクションプラン (H32年度まで)											
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標								
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度			
2. 財務	(2) 他の収入の恒常化	c. 二松学舎サービス㈱の業容拡充・収益向上	◎西畑常任理事	企画・財務課 ◎総務・人事課 ◎二松学舎サービス	・全学政策会議 ・二松学舎サービス連絡会議(仮称) ・二松学舎サービス取締役会	二松学舎の関係者から、より喜んで貰い、より役に立つ、信用力のある会社であるとの評価が定着している。	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施			
						二松学舎外部からの売上があり、地域や教育研究関係に貢献する会社となっている。	①他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク発展・強化 ②他大学出資事業会社との共同連携事業着手 ③外部売上増加策実施	①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施	①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施	①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施	①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施			
						収益を継続的に確保する安定した会社運営がなされている。	①学内サポート体制の確立(二松学舎内関係部署との連絡会定期開催、取締役会の活性化)							
						平成24年9月決算比:売上高は2.5倍(約8億円)、利益は2倍(売上総利益約1億円)となっている。 H32年度 売上高:660百万円 H32年度 売上総利益:86百万円	①5カ年計画の検証、見直しに着手	①5カ年計画の総括						
(3) 人件費比率の抑制	a. 人件費比率の適正化	◎西畑常任理事 小町理事	◎西畑常任理事 小町理事	企画・財務課 ◎総務・人事課 教務課	・予算編成会議	法人全体で退職金を除く人件費比率が50%程度で推移しており、特に大学非常勤教員数がH27年度より3割程度削減されている。	①制度に基づいた適正な開講科目・コマ数開講、及び外国語科目少人数化、新学科設置に伴う新規開講コマ数の検証 ②適正な開講科目・コマ数に基づく非常勤教員の削減	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し			
						部署別予算制度導入による事業計画と経費管理が実現している。	①各部署への説明実施 ②部署別予算導入	②部署別予算導入	②検証・見直し	②検証・見直し	②検証・見直し			
(4) 経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持	a. コスト意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化	◎西畑常任理事 小町理事	◎西畑常任理事 小町理事	◎経理課	・予算編成会議	経費節減の精神が学内構成員に浸透し、無駄のない職場になっている。	①管理経費の各部署への周知、節減意識醸成 ②実施した経費節減策の検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施			
						H32年度 柏キャンパス年間施設管理業務委託料:H25年度比-40%	①前年度施策の継続実施 ②「教職協働」定着化	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し			
3. 教職員の育成	(1) 教職員人材の育成	a. 「教職協働」の考え方定着化	◎五十嵐常任理事 小町理事 野口理事	◎総務・人事課	・全学政策会議 ・部局長会議 ・相互会代表者会議	課題解決に向け、教員と職員が議論する環境が整い、それぞれの立場を尊重し目標実現に向け前進する風土が確立している。	①FD活動内容の再検討 ②公開授業の実施 ③授業アンケート結果の有効活用による授業改善	②③継続実施・効果検証	②③継続実施・効果検証	②③継続実施・効果検証	②③継続実施・効果検証			
						b. 組織的なFD活動の実施(授業公開、授業アンケート結果の分析応用、アクティブラーニング、PBL授業の導入等)	◎磯副学長 野口理事	◎大学改革推進課	・自己点検評価運営委員会	FD活動が定着し、実質的に機能している。	①職員研修規程施行、新研修体制に基づく研修開始 ②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し
						c. 組織的なSD活動の実施(事務処理能力・企画立案能力向上)	◎小町理事 五十嵐常任理事	◎総務・人事課	・部課長会議	計画的なSDが実施され、職員個々の事務処理能力が向上し、業務効率がアップしている。全体的に企画立案能力が向上し、業務改善・改革が進んでいる。	①職員研修規程施行、新研修体制に基づく研修開始 ②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し
4. 人事・評価制度、能力開発・研修制度	(1) 教職員の定員管理	a. 教職員の定員管理	◎五十嵐常任理事 菅原学長 小町理事	◎総務・人事課 ◎大学改革推進課	・人事計画検討会議	定年退職者の補充、新規採用にあたっては年齢構成を考慮し、計画的に採用されている。	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進			
						b. 年齢構成の適正化による平均年齢の上昇抑制								
	(2) 教職員の積極性を引き出す評価制度	a. 評価制度の見直し	◎小町理事 五十嵐常任理事 西畑常任理事	◎総務・人事課	・人事制度検討委員会	現行の評価制度が見直され、良好な状態で機能している。	①評価基準の原案作成 ②評価規程の改正	③新評価制度で評価実施(評価者研修)	③検証、見直し	③検証、見直し	③検証、見直し			

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
4. 人事・評価制度、能力開発・研修制度	(3)働き甲斐ある職場の実現	a. 給与制度改革	◎小町理事 五十嵐常任理事 西畑常任理事	◎総務・人事課	・人事制度 検討委員会	給与制度改革や各種の施策が効果を奏し、待遇改善が図られている。					
		b. 福利厚生の充実				教職員のモチベーションを高めるため、福利厚生の充実が図られている。	①前年度施策の継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討
		c. 報奨制度の検討				永年勤続表彰の他、新たな報奨制度を実施する。	①新報奨制度継続実施				
5. 組織・権限	(1)ガバナンスの強化	a. 理事会機能の強化	◎五十嵐常任理事 菅原学長 西畑常任理事	◎総務・人事課	・理事会	理事会は、学内外情勢を把握し、学内の意見を反映し、担当理事制が十分に機能。長期ビジョン達成に向けた確かな決定を行い、理事会意思を学内へ示す経営体制になっている。	①各担当理事の機能を強化・充実 ③監事機能の強化	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実
		a. 意思決定の迅速化	◎五十嵐常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長 小町理事	◎総務・人事課	・全学政策会議	権限と責任の委譲が適正に行われており、意思決定の迅速化が図られている。	①全学政策会議の規程制定 ②決裁権限の効率化の検証				
	(2)意思決定の迅速化	b. 権限の明確化	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革 推進課	・大学審議会 ・部局長会議 ・教授会	平成27年4月1日施行の「学校教育法の一部改正」に伴った学内規程が運用され、学長のガバナンスが適正に実施されている。各会議体の役割分担、学内会議の整理統合が行われ、意思決定の迅速化が図られている。	②関連規程・内規等の改正・整備 ③各種会議体の変更後の効果検証				
		c. 大学事務組織の一元化	◎小町理事	◎総務・人事課		事務組織が再編され、教育研究支援に有効に機能している。	①学生支援センターについての検討				
		d. 業務の抜本的見直し	◎小町理事	◎総務・人事課	・部課長会議	業務を分析・整理したマニュアルに基づき、効率的に業務処理が行われている。	①各部署の業務マニュアル作成・整備 ②効率的な組織の構築に反映 ③適正な人員配置に反映	①マニュアルの点検 ②継続実施、見直し	①②③継続実施、見直し	①②③継続実施、見直し	①②③継続実施、見直し
6. 広報	(1)戦略的広報体制の確立・展開	a. 本学のブランド構築・向上、認知度向上	◎小町理事 五十嵐常任理事			時代に即した適切な広報が展開され、ブランド・イメージ、認知度が向上している。	①140周年広報の開始 ②今後5年間の広報戦略の検討・実施	①140周年広報の展開 ②広報の適切性、認知度向上について検証し、戦略的・効果的な広報を検討・実施	②広報の適切性、認知度向上について検証し、戦略的・効果的な広報を検討・実施	②広報の適切性、認知度向上について検証し、戦略的・効果的な広報を検討・実施	②広報の適切性、認知度向上について検証し、戦略的・効果的な広報を検討・実施
		b. 学校法人の知名度向上 c. 創立者三島中洲の知名度向上	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎広報課	・広報運営 委員会	二松学舎及び創立者三島中洲の知名度が、本学関係者以外にも広く伝わり、社会的な評価を得ている。	①各種施策の効果検証、見直し ②知名度アップの方策を検討・実施 ③本学ゆかりの著名人と絡めた情報発信実施 ④創立者ゆかりの地での情報発信検討・実施	①各種施策の効果検証、見直し ②知名度アップの方策を検討・実施 ③本学ゆかりの著名人と絡めた情報発信実施 ④創立者ゆかりの地での情報発信実施	①②③④各種施策の効果検証、見直し	①②③④各種施策の効果検証、見直し	①②③④各種施策の効果検証、見直し
		d. 学内情報の集約化体制整備	◎小町理事 五十嵐常任理事			学内情報が速やかに広報担当部署に集まる体制が整っている。	①学内情報集約化体制下での情報集約開始	①継続実施・見直し	①継続実施・見直し	①継続実施・見直し	①継続実施・見直し
		e. 学内情報の学外への効果的な発信	◎小町理事 五十嵐常任理事			法人・大学・附属校による、学校法人として統一感のある広報活動が展開されている。	①統一感のある広報展開 ②Facebookのオフィシャルページによる情報発信の実施 ③学生を活用した広報の実施				
		f. 広報運営委員会の在り方等再検討	◎小町理事			新たな広報戦略会議による、戦略的、効果的な広報が展開されている。	①新たな広報戦略会議による戦略的、効果的な広報活動の検討・実施				

N ⁺ 2020Plan の 課題			全学アクションプラン (H32年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
6. 広報	(2) 情報公開	a. 経営情報・教育情報の積極的公開	◎小町理事 西畑常任理事	◎広報課	・広報運営 委員会	HPの「情報公開」ページを通じた情報提供を積極的に。外部理事・評議員等を構成員としたモニター制度を整備し、提言をHPの改訂に生かす。	①モニター制度実施、調査結果のホームページへの反映、及び反映方法検証・見直し	①モニター制度実施、調査結果のホームページへの反映、及び反映方法検証・見直し	①モニター制度実施、調査結果のホームページへの反映、及び反映方法検証・見直し	①モニター制度実施、調査結果のホームページへの反映、及び反映方法検証・見直し	①モニター制度実施、調査結果のホームページへの反映、及び反映方法検証・見直し
		b. 大学ポर्टレートの効果的な活用	◎菅原学長 高野副学長	◎大学改革 推進課		大学ポर्टレートの情報が定期的に更新され、最新の情報が外部に提供されている。	①情報の更新 ②効果的な情報提供のための学内体制の整備・検証	①情報の更新 ②新たな学内体制での情報提供開始	①継続実施 ②継続実施・効果検証	①継続実施 ②継続実施・効果検証	①継続実施 ②継続実施・効果検証
	(3) 大学の学生 募集対策 広報	a. 戦略的な学生募集対策広報の実施	◎西畑常任理事 小町理事	◎広報課 ◎入試課	・学生募集広報 戦略検討会議	広報課と入試課が連携し、戦略的な学生募集対策広報を行い、大学の学生募集力が向上している。	①②前年度施策の効果検証、改善実施 ③都市文化デザイン学科の広報戦略検討、実施	①②効果検証、改善 ③都市文化デザイン学科、国際政治経済学部改編に係る広報実施	①②③効果検証、改善	①②③効果検証、改善	①②③効果検証、改善
7. その他	(1) 外部評価 機関の活用	a. R&Iの格付取得の継続、格付結果の教育・経営への活用	◎西畑常任理事	◎企画・財務課	・全学政策会議	財務体質の改善、規模拡大等を通じて格付評価を「A」に向上させる。 H32年度 格付評価:「A」(安定的)	①効果測定、格付け見直し実施	①効果測定、格付け見直し実施	①効果測定、格付け見直し実施	①効果測定、格付け見直し実施	①効果測定、格付け見直し実施
		b. 大学基準協会、その他認証評価結果の活用	◎高野副学長	◎大学改革 推進課	・部局長会議 ・自己点検評価 運営委員会	認証評価結果を活用して教育研究体制の改善がなされている。	①認証評価での課題改善 ②改善報告書の取り纏め ③第3期認証評価への対応	①認証評価での課題改善 ②改善報告書提出 ③第3期認証評価への対応	①認証評価での課題改善	①認証評価での課題改善	①認証評価での課題改善
	(2) 施設の適切な 管理	a. 校舎等の長寿命化、長期修繕計画の策定	◎西畑常任理事 小町理事	◎総務・人事課 企画・財務課 柏事務課	・キャンパス 整備委員会	各校舎の長期修繕計画が策定され、それに基づいた修繕が行われ良好に管理されている。	①現況調査の継続実施 ②長期修繕計画による修繕実施 ③長期修繕計画の公表	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施
	(3) 危機管理と 防災対策	a. 危機管理と防災対策	◎小町理事	◎総務・人事課	・防災対策会議	大震災等に対する防災対策が整備され、教職員・学生・生徒にとって安全な教育環境が整備されている。	①危機管理規程の制定	①検証・見直し	①検証・見直し	①検証・見直し	①検証・見直し
	(4) 学校法人 全体の規模 拡大	a. 系列校等の拡充 b. 小学校の設置検討 c. 他の高等学校等との連携	◎五十嵐常任理事 西畑常任理事 野口理事	◎大学改革 推進課 企画・財務課		新学部・学科の結論等を見ながら、設置の是非について適宜検討					